

マーケットアイ

シティーはEUの監視を受け入れるか＝ニコラス・ベロン氏(11/3/7)

ニコラス・ベロン氏

ブリュッセル社 シニアフェロー



欧州金融の中心であるシティー・オブ・ロンドンには、1990年代後半から2000年代にかけての大半の時期、いくつかの特異要因が有利に働いていた。まず、欧州連合(EU)が単一の金融サービス市場の創設を目指し、世界的にも金融規制が緩和され、欧州の金融統合が進んだことはシティーに多くの利益をもたらした。

これと並行して、英国の監督官庁である英金融サービス機構(FSA)がいわゆる「ライトタッチ」の監督方針を採用したため、シティーを含む英国の金融システムでは、規制が大幅に緩和された。同時に課税措置もゆるやかになっている。英政府も世論も「シティーの繁栄は国全体にとってよいことだ」と見なしていたから、こうした傾向にあえて反対してこなかった。ブリュッセルのEU当局も、規制緩和が進んで域内の障壁がなくなることに異存はなかった。

だが英国と大陸欧州のこの方向性は、金融危機で覆った。英政界は一転して、経済がおかしくなったのは銀行のせいだと非難している。FSAとイングランド銀行(英中央銀行)のトップは、金融機関の事業を制限すべきだとする世界的な要求を率先して代弁し始めた。英国のキャメロン政権が設立した独立銀行委員会は今年後半に提出する最終報告書で、この線に沿った措置を提案する見通しである。一方、財政再建が急務となる中、シティーや富裕層に対する課税強化を求める圧力も高まっている。

英国は同時に、大陸欧州で始まった金融制度改革の影響も受けている。EUは新たに独自の規制強化を進めており、1月1日に銀行、保険、証券の3分野を個別に管轄する3つの欧州監督機関が業務を開始した。この新設機関によって、大陸欧州が英国の規制環境におよぼす影響は危機前とは比べものにならないほど大きくなるだろう。

3つの機関のうち、欧州証券監督機関(ESMA)はパリに、欧州銀行監督機関(EBA)はロンドンにそれぞれ置かれる。これらの機関の任務は、現行のEU指令からさらに踏み込んで各国の金融規則の調和を図り、すべての金融機関に適用される「単一ルールブック」を策定することにある。また、ESMAが格付け機関を監督するといった具合に、一部の市場参加者の直接的な監督も行うことになる。

英国は、09年に開いた20カ国・地域(G20)による首脳会合(金融サミット)でこの金融改革を支持した。当時はアイスランド危機の記憶が生々しかったし、孤立して蚊帳の外に置かれるのではないかという危惧もあった。だがいまの英国では、見方が変わってきている。

この点は、ドイツとよく似ていて興味深い。ドイツは90年代初めに、ユーロ創設と単一市場としてのEUの強化と引き換えに、金融政策を欧州中央銀行(ECB)に委任することに同意した。だが今回の危機で、ECBがフランクフルトにあるにもかかわらず、あからさまにドイツ連邦銀行(ブンデスバンク、中銀)として行動するのを止めざるを得なくなった。

ドイツ国内での反応を見ると、最近のウェーバー連銀総裁の辞任騒ぎも含め、金融政策に関する主権の喪失が同国ではいまだに重大問題であることがうかがわれる。同様に英国も、EUの金融統合のために欧州監督機関の設置に同意はしたものの、その後の結果を必ずしも全面的に受け入れる用意はないようだ。

シティーが最も懸念するのは、米国と欧州という世界で最も重要な大陸間の金融取引関係において、ゲートキーパーとしての地位をバイパスされてしまうことである。この立場からすると、たとえばドイツ証券取引所とNYSEユーロネクストとの統合話よりも、ESAを巡る攻防の方がはるかに重大事だったと言えよう。

現時点では、新監督機関は発足したばかりで規模も小さい。しかもガバナンスの枠組みでは、EU全加盟国が同等のウエートを与えられているため、いずれ機能不全に陥っても不思議はない。現行のストレステスト(資産査定)のやり方も、近い将来にEBAの信認を損ねる可能性がある。だが長いスパンで見れば、欧州監督機関が勢力を拡大していくことはほぼ確実である。米国の大手金融機関も、大陸欧州における金融保護主義との戦いを後押しするだろう。となれば英国との摩擦は避けられず、単なる縄張り争い以上の事態になりかねない。

もっとも英国のEU政策の前途には、言うまでもなくさらに重大な難題が待ちかまえている。英国はユーロ危機を目の当たりにしながら、いまのところスウェーデンやポーランドなどとは異なり、新たな金融統治の仕組みは自国とは無関係であるとの姿勢を示している。だが本当にそうだろうか。英国は、よきにつけあしきにつけ、単一通貨を持つEUの大規模な制度改革と無縁ではいられない。いずれ改革の影響が表れてくるはずだ。しかし有権者がユーロに懐疑的であるため、英国の政治家は当面最も簡単な方法として、頭を砂の中に突っ込んで見ないふりをしている。

一方、欧州監督機関の権限を巡る問題は、英国と欧州近隣諸国との間で引き続き争点となるだろう。危機前には欧州全域を網羅する金融の監視が行われておらず、シティーは欧州全域にまたがって自由に活動することができた。だがそうした日々はもはや終わり、二度と戻ってくることもあるまい。にもかかわらずシティー関係者の多くは、新しい状況を直視していない。このところの英国では、EUに関する議論がほとんど行われませんが、これはブリュッセルにとってもロンドンにとっても懸念すべき事態である。

マーケットアイ

ドイツの好調いつまで=ディーター・ベルムート氏(11/3/8)

シティーはEUの監視を受け入れるか=ニコラス・ベロン氏(11/3/7)

いくつもの時限爆弾を抱える世界経済=ロバート・プラスカ氏(11/3/4)

財政再建の機を逸する日本=アンドリュー・スミザーズ氏(11/3/3)

止まらないインフレの「回転木馬」=アンソニー・ダス氏(11/3/2)

インフレは東から西へ=ブライアン・ヒリアード氏(11/3/1)

明るさ増す米景気見通し=デビッド・レスラー氏(11/2/28)
驚くべき中国の成長スピード=ジム・オニール氏(11/2/25)
米金融引き締めは年末近くまでない=マイケル・モラン氏(11/2/24)
米量的緩和は延長されない=スコット・パーディー氏(11/2/23)
アニマルスピリットの復活=ジャイルズ・キーティング氏(11/2/22)
商品高が世界経済のリスクに=ロバート・マギー氏(11/2/21)
エジプトは炭鉱のカナリア=ジョージ・マグナス氏(11/2/18)
「第2の日本」と化する米経済=ジョン・メイキン氏(11/2/17)
限界にきたドルのキャリートレード=ハワード・シモンズ氏(11/2/16)
商品価格を押し上げる投資需要=マイケル・ルイス氏(11/2/15)
世界経済、楽観できず=スティーブン・ルイス氏(11/2/14)
アジアのチャンピオン・日本のリスク=ホーカン・ヘッデストレム氏(11/2/10)
米雇用問題は教育の問題=アビー・コーエン氏(11/2/9)
アジア株、銘柄選別の時=プ・ヨンハオ氏(11/2/8)
新興国に打撃与える農産物価格上昇=マット・ロビンソン氏(11/2/7)
チャイナ・バブルは大丈夫か=ロバート・ミラー氏(11/2/4)
量的緩和解除でも終わらない米株価上昇=マーシャル・エイコフ氏(11/2/3)
ユーロ危機、政策対応の上積みは急務=ジャック・カイユ氏(11/2/2)
増える債券投資の機会=アントニー・クレセンツィ氏(11/2/1)
2011年は先進国の株式投資が有利=マンブリート・ギル氏(11/1/31)
アジアが高成長を続ける3つの理由=デビッド・カーボン氏(11/1/28)
家計部門の復活で米経済に楽観論=デービッド・ヘイル氏(11/1/27)
世界景気、今年は上向く=マリア・ラミレス氏(11/1/26)
米金融政策に市場は困惑=ロバート・ジェネツキー氏(11/1/25)
投資魅力高まる東欧株式=エドガー・ヴァルク氏(11/1/24)
ECBがユーロを沈没させる=ブレンダン・ブラウン氏(11/1/21)
米FOMC投票メンバーに量的緩和反対派増える=ワード・マッカーシー氏(11/1/20)
資産査定、「3度目の正直」になるか=ニコラス・ベロン氏(11/1/19)
2011年の不動産投資=ジャック・ゴードン氏(11/1/18)
米経済は回復期から拡大期へ=ニコラス・サージェン氏(11/1/17)
欧州共通国債は現実的な手段=アドルフ・ローゼンシュトック氏(11/1/13)
米国に古き良き時代は戻らず=ゲーリー・シリング氏(11/1/12)
ユーロ危機脱却には包括的解決策が必要=トーマス・マイヤー氏(11/1/11)
米議会对立深まれば円高加速も=ジェイ・ウッドワース氏(11/1/6)
株価上昇の環境は整った=イアン・ハーウッド氏(11/1/4)
ドル安による輸出増が米経済の成長エンジンに=ミルトン・エズラツィ氏(10/12/28)
欧州危機の再発は避けられない=ロバート・ブラスカ氏(10/12/27)
ユーロ危機は欧州統一への触媒=ディーター・ベルムート氏(10/12/24)
世界経済にリスクもたらす中国=マヌ・バスカラン氏(10/12/22)
米景気拡大は政府頼み=スコット・パーディー氏(10/12/21)
人口減を恐れるな=アンドリュー・スミザーズ氏(10/12/20)
中国のインフレは危険水域に=アンソニー・ダス氏(10/12/16)
QE2で使命を果たすFRB=ポール・マカリー氏(10/12/15)
先進国の景気見通し好転は2012年前半=クリストファー・ラブキー氏(10/12/13)
株式の分散投資はまだ可能だ=ハワード・シモンズ氏(10/12/10)

QE2はあさはかな政策なのか＝マイケル・モラン氏(10/12/9)
中国、政策総動員で引き締め強化へ＝ピーター・レッドワード氏(10/12/8)
「通貨戦争」をめぐる論点＝ジム・オニール氏(10/12/7)
再び高まる日本株への関心＝ホーカン・ヘッデストレム氏(10/12/6)
アジアは引き締め策が必要＝マット・ロビンソン氏(10/12/3)
欧州危機、真の解決策は構造改革＝ジョージ・マグナス氏(10/12/2)
欧州の銀行、信頼回復への道遠し＝ニコラス・ベロン氏(10/12/1)
強気サイクルを迎える2011年＝ロバート・マギー氏(10/11/30)
アイルランドはユーロから脱退すべきだ＝ロバート・ミラー氏(10/11/29)
アイルランド問題がもたらす金融安定化への教訓＝スティーブン・ルイス氏(10/11/26)
ETF資金は工業用金属相場に向かう＝マイケル・ルイス氏(10/11/25)
危機抑止へEUは強力な行動を＝ジャック・カイユ氏(10/11/24)
QE3はあるのか＝ジョン・メイキン氏(10/11/22)
ドル・ユーロ・円を展望する＝デレク・ハルペニー氏(10/11/18)
オバマ氏、大統領再選に景気の追い風？＝デービッド・ヘイル氏(10/11/17)
米国株には潜在的強気材料が目白押し＝マーシャル・エイコフ氏(10/11/16)
米中間選挙終わり共和党に期待＝マリア・ラミス氏(10/11/15)
中間選挙を機に経済政策は成長重視へ＝ロバート・ジェネツキー氏(10/11/12)
ギリシャは債務再編が必要＝エドガー・ヴァルク氏(10/11/11)
2極化へ向かうユーロ圏＝ジェラード・ライオンズ氏(10/11/10)
量的緩和に熱心なFRB＝ブライアン・ヒリアード氏(10/11/9)
株には強気、ドルや債券は弱気＝ジャイルズ・キーティング氏(10/11/8)
根拠なき米国債バブル論＝アントニー・クレセンツィ氏(10/11/5)
新興経済諸国の運命を左右するユーロ相場＝アドルフ・ローゼンシュトック氏(10/11/4)
通貨戦争の真の脅威とは＝ニコラス・サージェン氏(10/11/2)
ドイツは復活したが…＝トーマス・マイヤー氏(10/11/1)
通貨と貿易を巡るノイズ＝アビー・コーエン氏(10/10/29)
追加緩和は正しいのか＝ワード・マッカーシー氏(10/10/28)
米、景気刺激策の継続が不可欠＝ゲラリー・シリング氏(10/10/27)
中国の公共住宅政策で投資機会増大＝ブ・ヨンハオ氏(10/10/26)
米企業収益を高める「営業レバレッジ」の効果＝ミルトン・エズラッティ氏(10/10/25)
ドル安進行、1ドル＝75円に＝ジェイ・ウッドワース氏(10/10/22)
身動き取れない米家計＝ジョン・ロンスキー氏(10/10/21)
モーゲージ証券にご用心＝スコット・パーディ氏(10/10/20)
米、柔軟なインフレ目標設定を＝アンドリュー・スミザーズ氏(10/10/19)
ユーロが強含んでいる理由＝ポール・モーティマ・リー氏(10/10/18)
奏功する米国のドル安政策＝ディーター・ベルムート氏(10/10/15)
不動産、需要サイクルが底に＝ジャック・ゴードン氏(10/10/14)
中国に改革は可能か＝ジョージ・マグナス氏(10/10/13)
米追加金融緩和の読み方＝デビッド・レスラー氏(10/10/12)
アジア投資は慎重に＝マヌ・バスカラン氏(10/10/8)
中国は不胎化政策緩和で内需拡大を＝アンソニー・ダス氏(10/10/7)
デフレ回避に不可欠な「非伝統的な金融政策」＝ポール・マカリー氏(10/10/6)
米国、銀行と家計のバランスシート修復進む＝マイケル・モラン氏(10/10/5)
二番底はなくてもFRBは金融緩和へ＝クリストファー・ラプキー氏(10/10/4)

アジア各国は金融引き締め継続必要＝ニキリシュ・バタチャリヤ氏(10/10/1)
株式市場、再び上昇トレンドに＝ジム・オニール氏(10/9/30)
非の打ちどころがないアジアの景気回復＝デビッド・カーボン氏(10/9/29)
米国で加速する高齢層の株離れ＝ハワード・シモンズ氏(10/9/28)
米経済は予想外に上向き可能性＝ロバート・マギー氏(10/9/27)
生かされない大恐慌の教訓＝ロバート・ミラー氏(10/9/24)
バーゼル新規制は有効か＝スティーブン・ルイス氏(10/9/22)
円売り介入、効果はあるか＝ホーカン・ヘッDESTREM氏(10/9/21)
日本はデフレ・円高克服に向け断固たる措置を＝ジョン・メイキン氏(10/9/13)
欧州危機から目をそらすな＝ジャック・カイユ氏(10/9/10)
景気刺激策の効果、中間選挙に間に合わず＝ロバート・ブラスカ氏(10/9/9)
米経済、近く回復軌道に戻る＝デービッド・ヘイル氏(10/9/6)
米、追加緩和は無用＝ブレンダン・ブラウン氏(10/9/2)
米国株の弱気相場はしばらく続く＝マーシャル・エイコフ氏(10/9/1)
ユーロ圏は維持できるか＝ジョヴァンニ・スタウノーヴォ氏(10/8/31)
構造改革効果が続くドイツ経済＝エドガー・ヴァルク氏(10/8/30)
二番底は来るのか＝ジャイルズ・キーティング氏(10/8/27)
今こそバーベル型投資が有効＝マンプリート・ギル氏(10/8/26)
米経済、政策転換が急務＝ロバート・ジェネツキー氏(10/8/25)
米景気は二番底をつけるか＝マリア・ラミス氏(10/8/24)
米経済を曇らすドイツ型回復モデル＝ブライアン・ヒリアード氏(10/8/23)
原油・貴金属に上昇余地＝マイケル・ルイス氏(10/8/20)
過去最低の米金利にどう適応するか＝ニコラス・サージェン氏(10/8/19)
財政再建は景気回復を妨げず＝トーマス・マイヤー氏(10/8/18)
米貿易赤字増なら円最高値更新も＝ジェイ・ウッドワース氏(10/8/17)
不吉な予言に挑むギリシャのプライド＝アドルフ・ローゼンシュトック氏(10/8/16)
世界経済、二番底の懸念は無用＝イアン・ハーウッド氏(10/8/13)
ユーロ圏体制はどうなるのか＝ゲーリー・シリング氏(10/8/12)
日本は消費税引き上げを回避すべき＝ミルトン・エズラッティ氏(10/8/11)
傷浅いドイツ労働市場に学べ＝ディーター・ベルムート氏(10/8/10)
欧州ストレステスト、市場の反応は好意的＝ポール・モーティマ・リー氏(10/8/9)
人民元上昇の恩恵、アジアにも＝アンソニー・ダス氏(10/8/6)
シュンペーターの「創造的破壊」を見直すべきとき＝スコット・パーディー氏(10/8/5)
レバレッジ解消、景気低迷招く＝ジョージ・マグナス氏(10/8/4)
財政不安で失速するケインズ理論＝アントニー・クレセンツィ氏(10/8/3)
岐路に差し掛かる中国とアジア＝マヌ・バスカラン氏(10/8/2)
FRBはあらゆる選択肢をオープンに＝ワード・マッカーシー氏(10/7/30)
FRBに残された3つの選択肢＝クリストファー・ラブキー氏(10/7/29)
転換点を迎えた商品市場＝ケビン・ノリッシュ氏(10/7/28)
欧州リスクから遠いアジア＝ティーヌ・オルセン氏(10/7/26)
不透明感強まる米景気＝デビッド・レスラー氏(10/7/23)
日本は退屈な国ではない＝ジム・オニール氏(10/7/22)
前に転ぶか後ろにひっくり返るか＝アンドリュー・スミザーズ氏(10/7/21)
足踏みする不動産の情報開示＝ジャック・ゴードン氏 オリビエ・メージュ氏(10/7/20)
アジアの利上げ、なお続く＝デビッド・カーボン氏(10/7/16)

日本、W杯では「株」上げたが……=ホーカン・ヘッDESTREM氏(10/7/14)
米、年後半は2~2.5%成長へ=マイケル・モラン氏(10/7/12)
景気は2番底に落ち込むのか=スティーブン・ルイス氏(10/7/9)
日本の例が暗示する米ゼロ金利の長期化=ハワード・シモンズ氏(10/7/8)
財政に従属する金融とインフレリスク=ポール・マカリー氏(10/7/7)
景気回復には財政再建が必要=ロバート・ミラー氏(10/7/5)
財政再建を金融緩和が下支え=ロバート・マギー氏(10/6/29)
欧州は「一つの声」で語れ=ジャック・カイユ氏(10/6/28)
欧米経済 悲観は無用=ロバート・プラスカ氏(10/6/25)
米財政は株式市場の脅威=ロバート・ジェネツキー氏(10/6/21)
ユーロ相場、つかの間の回復=デレク・ハルペニー氏(10/6/18)
波乱含みの欧州銀行=ジャイルズ・キーティング氏(10/6/17)
米株「長期弱気」のなかの「短期強気」相場=マーシャル・エイコフ氏(10/6/16)
金と文明の衝突=アンディ・スミス氏(10/6/15)
ユーロ危機打開、お手本は東欧に=エドガー・ヴァルク氏(10/6/14)
危機はらむECBの債券買入れ=トーマス・マイヤー氏(10/6/11)
問題は「ユーロ圏」だけじゃない=ブライアン・ヒリアード氏(10/6/10)
何の根拠もない市場の懸念=イアン・ハーウッド氏(10/6/8)
欧州不安、日米景気に冷水=ジェイ・ウッドワース氏(10/6/4)
ギリシャ危機を前向きにとらえよ=ミルトン・エズラッティ氏(10/6/3)
どうなる欧州通貨同盟=デービッド・ヘイル氏(10/6/2)
黄金時代の災いを追体験するスペイン=ブライアン・ローズ氏(10/5/31)
ユーロ危機後の勝者はドイツ=アドルフ・ローゼンシュトック氏(10/5/28)
日本はギリシャにあらず=ジェイソン・ベンダリー氏(10/5/27)
米労働市場の回復は遅れる=ワード・マッカーシー氏(10/5/26)
米経済は依然不調=ゲーリー・シリング氏(10/5/25)
人民元改革のジレンマ=マット・ロビンソン氏(10/5/24)
上向き始めた米景気と欧州債務危機=クリストファー・ラプキー氏(10/5/21)
政策リスクが高まるアジア経済=マヌ・バスカラン氏(10/5/20)
ギリシャ危機は「市場の反乱」=スコット・パーディ氏(10/5/19)
マレーシア、新経済モデルの課題=アンソニー・ダス氏(10/5/18)
景気回復にはさらなる破産が必要=アンドリュー・スミザーズ氏(10/5/17)
国家債務危機は商品市場の暗雲か=ケビン・ノリッシュ氏(10/5/14)
勢い増す米個人消費、景気回復の原動力に=デビッド・レスラー氏(10/5/13)
石油需要は上方修正の可能性も=マイケル・ルイス氏(10/5/12)
米金融政策、7~9月に転機か=マイケル・モラン氏(10/5/11)
英財政赤字は思ったほど悪くない=ジム・オニール氏(10/5/10)
もはや通用しない債券市場均一論=アントニー・クレセンツィ氏(10/5/7)
日本の会計年度が対米投資に及ぼす影響=ハワード・シモンズ氏(10/5/6)
金融機関への規制、資本基準より厳しく=スティーブン・ルイス氏(10/4/30)
米経済、追い風の後には=アントニー・クレセンツィ氏(10/4/27)
「流動性のわな」に反論する=ロバート・ミラー氏(10/4/26)
中国、2つの「神話」を検証する=デビッド・カーボン氏(10/4/23)
英ポンドに3つのシナリオ=ポール・メゲシー氏(10/4/22)
米株式市場、長期的にはまだ過小評価=ロバート・マギー氏(10/4/21)

中国経済の過熱を警戒＝ジョン・メイキン氏(10/4/15)
米経済、持続可能な成長軌道に＝ジョン・ロンスキー氏(10/4/14)
IMFのギリシャ関与に4つの問題＝ジャック・カイユ氏(10/4/13)
利上げに慎重なFRB＝ロバート・ブラスカ氏(10/4/12)
ユーロ危機知らせる「カナリア」＝ブレンダン・ブラウン氏(10/4/7)
米国株、上昇どこまで＝マーシャル・エイコフ氏(10/4/6)
米国はもう破産している＝ロバート・ジェネツキー氏(10/4/5)
排出量取引に代わる温暖化対策＝デービッド・ヘイル氏(10/4/2)
世界経済「春近し」だが…＝ブライアン・ヒリアード氏(10/4/1)
試練に直面するユーロ圏＝エドガー・ヴァルク氏(10/3/31)
EMFと「秩序ある破綻」＝トーマス・マイヤー氏(10/3/30)
今後は米国の財政赤字に拍車がかかる＝マリア・ラミス氏(10/3/29)
新興国通貨の上昇、今後10年の最大トレンドに＝ジャイルズ・キーティング氏(10/3/26)
企業収益の改善を過小評価するな＝イアン・ハーウッド氏(10/3/25)
通貨主権なきユーロの悲劇＝ミルトン・エズラッティ氏(10/3/24)
米FF金利、上昇しても年末0.75%＝ジェイ・ウッドワース氏(10/3/23)
ユーロの行き着く先は＝ポール・モーティマ・リー氏(10/3/19)
景気回復、力強い米国と下方修正のユーロ圏＝ジェイソン・ベンダリー氏(10/3/18)
危機から1年、株価も脱横並びに＝ニコラス・サージェン氏(10/3/17)
新興市場は言われているほど魅力的か＝マヌ・バスカラン氏(10/3/16)
ギリシャ悲劇の重い教訓＝ティム・ボンド氏(10/3/15)
世界の株式市場、過去10年より魅力的に＝ブライアン・ローズ氏(10/3/10)
低下する欧州債利回り＝ディーター・ベルムート氏(10/3/9)
ギリシャ財政危機、最大の問題は救済の是非ではない＝アドルフ・ローゼンシュトック氏(10/3/8)
2010年のアジアは金融引き締め＝デビッド・カーボン氏(10/3/4)
米の緩和解除は陰しい道のり＝スコット・パーディー氏(10/3/3)
市場を悩ます不確実性＝クリストファー・ラブキー氏(10/3/2)
米国の2つの難問＝デビッド・レスラー氏(10/3/1)
ソブリンリスクへの懸念強まる＝アントニー・クレセンツィ氏(10/2/23)
欧州や中国は日本の経験から学ぶべきだ＝ジョージ・マグナス氏(10/2/22)
国際商品とS&P500種指数の相関高まる＝マイケル・ルイス氏(10/2/19)
今年の回復は遅い＝アンドリュー・スミザーズ氏(10/2/18)
日本株にさらなる上昇余地＝ホーカン・ヘッDESTREM氏(10/2/17)
景気回復に取り残される米小企業＝ロバート・マギー氏(10/2/16)
アジア太平洋地域の展望＝マシュー・シルコスタ氏(10/2/15)
企業と国のCDSプレミアムは逆転していない＝ハワード・シモンズ氏(10/2/12)
米長短金利差に拡大圧力＝ワード・マッカーシー氏(10/2/10)
G20に背を向けた米国＝スティーブン・ルイス氏(10/2/9)
ダボス会議で見た新たな問題＝ジェラード・ライオンズ氏(10/2/8)
ドル・ユーロ・円の展望＝デレク・ハルペニー氏(10/2/5)
古典的な景気循環への回帰＝ロバート・ミラー氏(10/2/4)
前途多難の米経済＝ロバート・ブラスカ氏(10/2/3)
ECBの対ギリシャ強硬姿勢は通貨同盟の崩壊を意味しない＝ジャック・カイユ氏(10/2/2)
国際商品、下落の理由なし＝ケビン・ノリッシュ氏(10/2/1)
商業用不動産市場の回復は＝ジャック・ゴードン氏(10/1/28)

金価格は青天井か＝アンソニー・ダス氏(10/1/27)
明るい展望に影を落とすリスク＝ジャイルズ・キーティング氏(10/1/26)
痛みはいつ始まるか＝ブライアン・ヒリアード氏(10/1/25)
米国株、業績相場へ移行＝マーシャル・エイコフ氏(10/1/21)
ギリシャ財政危機のゆくえ＝デービッド・ヘイル氏(10/1/20)
欧州通貨圏の初めての深刻な危機＝エドガー・ヴァルク氏(10/1/19)
今年の回復はコンセンサス予測より上ぶれ？＝イアン・ハーウッド氏(10/1/18)
信頼のよりどころなき世界で進行する「金革命」＝アンディ・スミス氏(10/1/15)
歳出増で米景気は回復するか＝ロバート・ジェネツキー氏(10/1/14)
ユーロは悩み多き思春期へ＝トーマス・マイヤー氏(10/1/13)
読みにくい2010年、幅広いシナリオの想定が必要＝ポール・マカリー氏(10/1/12)
2010年、米成長率は2%程度＝マリア・ラミレス氏(10/1/8)
米景気、下振れリスクあるが成長は持続＝マイケル・モラン氏(10/1/7)
米国、「悪い年」にはならない＝ジェイ・ウッドワース氏(10/1/6)
ギリシャはユーロ圏の仲間か厄介者か＝アドルフ・ローゼンシュトック氏(09/12/29)
FRBと金の賭け＝ミルトン・エズラッティ氏(09/12/28)
世界経済は回復に向かう＝ニコラス・サージェン氏(09/12/24)
2010年、景気回復の不確実性＝ティム・ボンド氏(09/12/22)
来年のFOMCは引き締めへ傾く＝ワード・マッカーシー氏(09/12/21)
超高層ビルが示すバブル指標＝ブライアン・ローズ氏(09/12/18)
2010年どこへ向かうアジア経済＝マヌ・バスカラン氏(09/12/17)
日本株、上昇相場の入り口に＝ホーカン・ヘッDESTREM氏(09/12/16)
出口の先はどこへ＝ポール・モーティマ・リー氏(09/12/15)
米景気回復ペースは鈍く＝ゲアリー・シリング氏(09/12/14)
危機の裏に金融エンジニアの怠慢＝スコット・パーディ氏(09/12/11)
規制で危機は防げない＝クリストファー・ラプキー氏(09/12/10)
国際商品の見通し＝マイケル・ルイス氏(09/12/9)
ユーロ圏、インフレ懸念は幻＝ディーター・ベルムート氏(09/12/8)
経済予測に3つのコツ＝ジム・オニール氏(09/12/7)
懸念すべき国の信用力低下＝ハワード・シモンズ氏(09/12/4)
いま気になる3つのこと＝ジェラード・ライオンズ氏(09/12/3)
民主党政権は財政刺激策の継続が重要＝アンドリュー・スミザーズ氏(09/12/2)
中国にインフレが来る＝ジョン・メイキン氏(09/12/1)
2009年は年初より明るい見通しで暮れる＝アビー・コーエン氏(09/11/30)
FRBにかかる政治圧力＝スティーブン・スタンレー氏(09/11/27)
国債市場に忍び寄る危機＝ジョージ・マグナス氏(09/11/26)
アジアがドル準備を積み上げる理由＝スティーブン・ルイス氏(09/11/25)
FRBが示した「出口」までの工程表＝アントニー・クレセンツィ氏(09/11/24)
米株式市場の展望明るい＝ロバート・プラスカ氏(09/11/20)
アジア景気、V字回復の終わり＝デビッド・カーボン氏(09/11/19)
金と株、同時高のパラドックス＝ブライアン・ローズ氏(09/11/18)
景気回復は短命、懸念はスタグフレーション＝ロバート・ミラー氏(09/11/17)
ワシントンと北京 二極の金融の嵐＝ブレンダン・ブラウン氏(09/11/16)
年金基金と不動産＝ジャック・ゴードン氏(09/11/13)
金融緩和は新たなバブルの原因に？＝ポール・メゲシー氏(09/11/12)

底堅さ際立つドイツの労働市場=ジャック・カイユ氏(09/11/11)
米経済回復、自動車と住宅が推進力に=ロバート・マギー氏(09/11/10)
米国の弱々しい景気回復=ジェイ・ウッドワース氏(09/11/9)
株式相場、油断は禁物=ロジャー・クバリッチ氏(09/11/4)
米の消費者にのしかかる重圧=デビッド・レスラー氏(09/11/2)
緩和策の解除ためらうECB=トーマス・マイヤー氏(09/10/29)
米国株はなぜ上がったか=デービッド・ヘイル氏(09/10/28)
ドル、準備通貨の座は安泰=アンソニー・ダス氏(09/10/27)
世界景気、回復の好循環へ=ジャイルズ・キーティング氏(09/10/26)
金融政策、株価、景気回復=ロバート・ジェネツキー氏(09/10/23)
消費不振、米景気に暗雲=マリア・ラミレス氏(09/10/21)